



中心部震災メモリアル拠点のイメージ

活動の杜

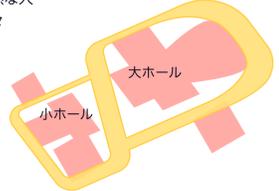
震災復興の過程において、文化芸術活動は人々の心を癒し、後押しすると同時に、未来に向かって生きていく力を生み出す大きな原動力にもなりました。それは、市民が単に文化芸術活動の受け手として鑑賞したり楽しむだけではなく、むしろ自らも演じ発信する当事者になれるのだという可能性に触れ、また同時にこうした活動を支える数多くの人たちの目に見えないエネルギーの総体が、多くの心に響いたからだと思えます。

未曾有の災害から立ち上がった仙台につくる新ホール・震災メモリアル拠点においては、こうした文化芸術活動のために最高の舞台をつくるのはもちろんですが、同時にこうした活動を支える数多くの人やモノの総体が体感でき、また同時に自らもこのホールを支える当事者であると実感できることが何よりも重要だと私たちは考えました。そこで私たちは、従来のホールにあるような表と裏・観客と演者といった対立的な構図で設計をするのではなく、むしろ両者の接点が拡張し、表と裏が近接したり、シームレスにつながったり、反転したりしながら様々な場所・きっかけを生み出し、多彩なアクティビティがそこそこで生起する「活動の杜」こそ、このホール、メモリアルに相応しいと考えました。傷ましい震災の記憶と今そこにある人々の生き生きとした活動、ハレとケ、表と裏が渾然一体となった中から浮かび上がる新しいホール像こそ、仙台の地だからできるホールであり、震災メモリアル拠点です。

1.風景と活動を織り込む〈ミチ〉と〈ヒロマ〉

大小のホールを向かい合わせに配置し、ホールを囲うようにホワイエ・ロビーが連なったミチを巡らせませす。広瀬川や青葉山の自然、都心部の街並みまで様々な景色を取り込むことができます。そのミチに沿って展示スペースや練習室、リハーサル室など様々なアクティビティを内包した大小のヒロマを配置します。

一筆書きの動線でつながったミチは、自然な人の流れを生むとともに、移動しながら様々な活動にふれる機会を増幅させ、訪れる度に新たな発見・出会いに溢れたホールをつくりまします。緩やかに蛇行する動線に沿って少しずつ風景が展開する空間はコンサート・演劇へと向かう高揚感を演出するアプローチであり、リニアに伸びる空間構成はもぎり前の行列を受け止めるバッファアとしても機能します。



3.表と裏/観客と裏方

ミチの中央部はSの字の結び目であると同時に、表と裏が接する結節点でもあります。大小ホールの舞台裏・搬入ヤード等、裏方のコアとも呼べる部分の直上をメインのロビー空間が貫いており、ミチを巡りながら吹抜け越しに階下の搬入や舞台道具の様子を垣間見ることができます。

一方で、2階のミチと同じレベルには震災メモリアル機能を配置します。木立のように林立する壁際の隙間から、災害の記憶・防災への備えという展示・コンテンツが並ぶ空間は、日常と表裏一体の災害へ思いを馳せ、学ぶきっかけとなる新ホールのシンボルとなる場所です。



仲の瀬橋からのイメージ

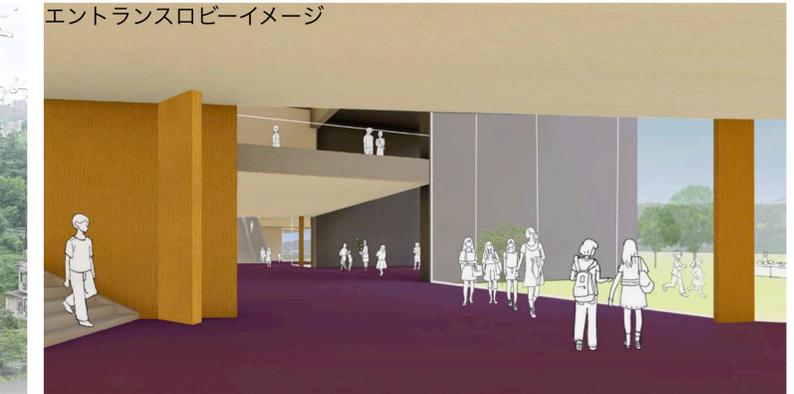
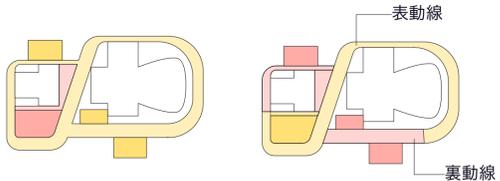
2.人の流れと活動がファサードをつくる

1階からSの字状につながるミチは、どの方向からも内部の人の流れが垣間見え、飛び出したヒロマからは多種多様な活動が顔を出します。全体としては巨大な建物ですが、適度なスケールに分節されたヒロマと透明なミチからなる構成は、人々の動きと市民一人ひとりの活動そのものが建物のファサードをつくりまします。

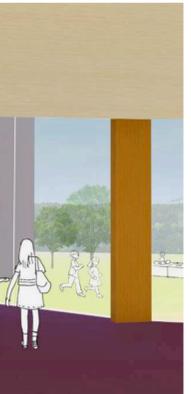
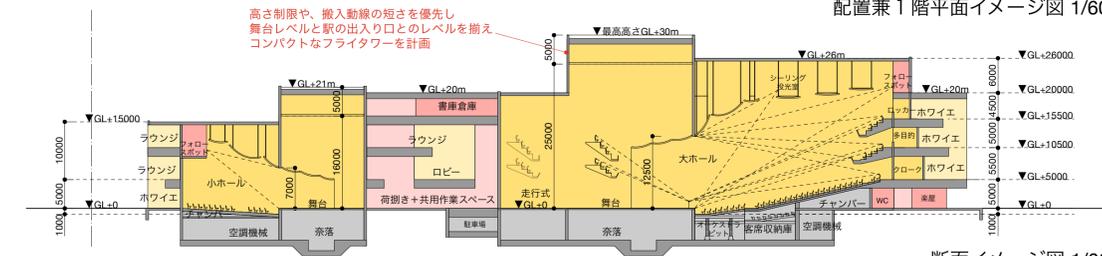
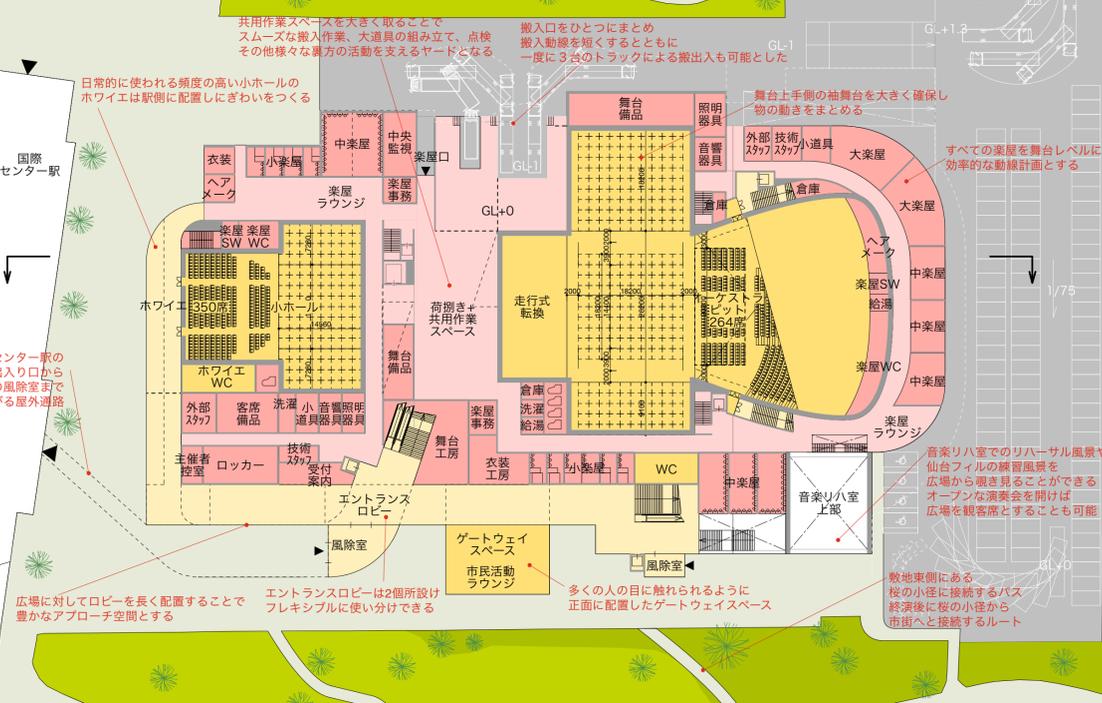
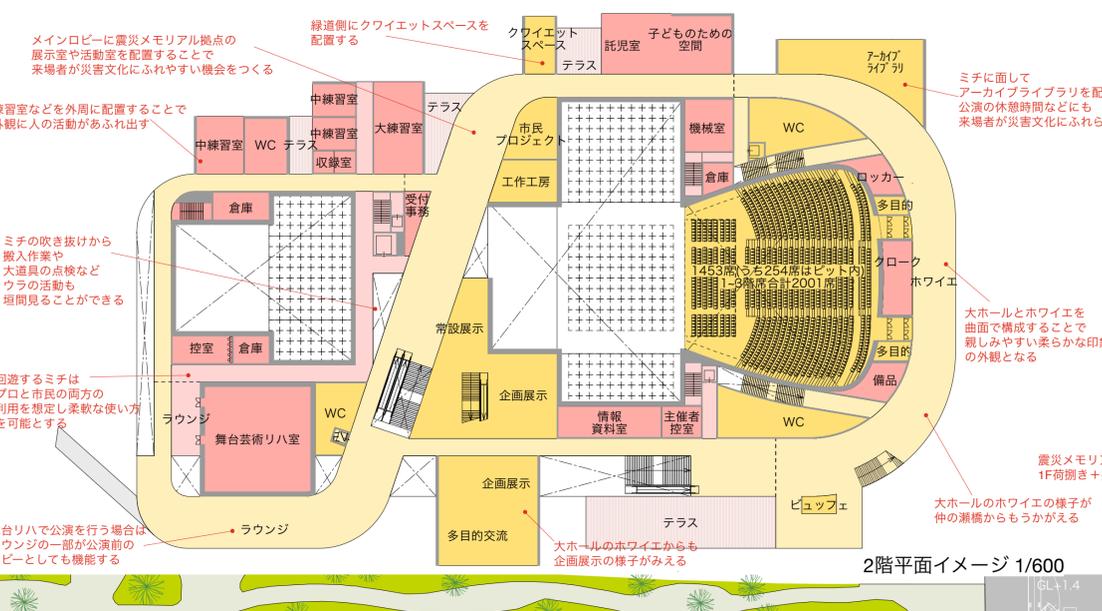


4.表裏が反転・伸び縮みするミチ

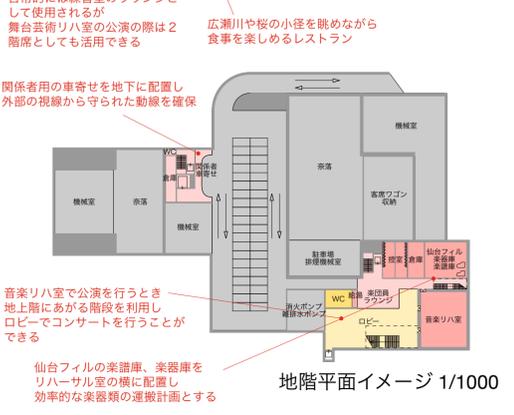
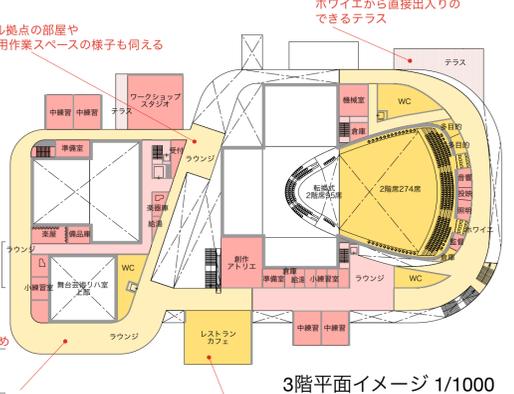
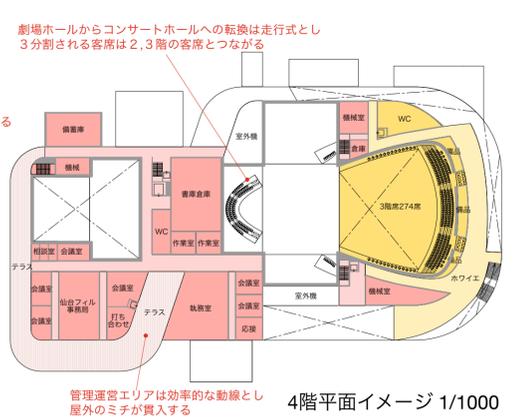
音楽・舞台リハーサル室、スタジオ、練習室など、表にも裏にもなる部屋はミチの表裏を切り替えることで、自在にモードチェンジすることが可能です。全館を利用した音楽イベントや大規模学会から小さな発表会まで、様々な用途に応じて変化するミチは、管理者にとっての使い勝手と来館者にとっての新鮮な回遊性を兼ね備えた空間です。



エントランスロビーイメージ

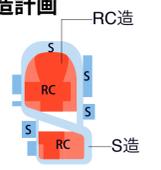


クワイエットスペースをみる



■空間構成と呼応した合理的な構造計画

大小ホールをはじめ、中央の大きなヒロマのボリュームは遮音性及び耐震性を担保する鉄筋コンクリート造とし、緩やかに蛇行しながら伸びるミチや外周の小さなヒロマは鉄骨造として計画します。耐震要素をバランスよく配置し、ホール等の大部屋以外は比較的小さなスパンで構成することで、経済的にも合理的な構造計画です。



■居住域を主体とした快適かつ省エネルギーな環境計画

大空間であるホールは、座席に沿って床から吹き出す居住域空調とし、センシングによって着席エリアのみ空調するシステムを構築します。吹抜け空間であるミチについても同様に床吹き出しによる居住域を主体とした空調計画とすることで必要最小限のエネルギーで運用できる計画とします。また、NC値に配慮し、設備置き場とホールにはバッファアを設ける計画とします。

断面イメージ図 1/600



大ホール

整理番号